

オリンピック・パラリンピック教育を志向した陸上運動の授業づくり

Development of a track and field curriculum for teachers wishing to teach Olympics and Paralympics values

池田延行

Nobuyuki IKEDA

I. 研究の目的

筆者らは、陸上運動・競技の授業づくりに向けて今までにいくつかの授業実践とそこから得られた結果等を踏まえた授業づくりの提言を行ってきた。

こうした今までの授業実践等を踏まえながら、本研究では「2020年東京オリンピック・パラリンピック」の開催に向けて、小学校での陸上運動の授業実践を通して「オリンピック・パラリンピック教育（以下「オリ・パラ教育」と表記する）」に関連する内容を検討することを目的としている。

具体的には、陸上運動の授業では記録の測定が可能であることから、ある競技種目の男女世界記録に小学生がどの程度到達する（%など）ことができるかを具体的に検討することである。「オリ・パラ教育」の1つに、世界のトップ選手の記録や演技等の素晴らしさに触れて、その競技や体育・スポーツへの興味・関心が高まることへの取り組みも含まれていると思われることからである。

そこで、本研究では、走り幅跳びに焦点を当てて、男女世界記録と小学校での授業実践との比較を試みた。こうした世界記録への到達の具合を把握することで、児童の陸上運動への興味・関心を高めたり、具体的なめあてとなる目標記録を設定

したりすることも意図できると考えている。

II. 研究の方法

1. 文献による研究

陸上競技各種目の男女世界記録、日本記録等は陸上競技に関する文献¹⁾からデータを収集し、整理した。

2. 授業実践による研究

小学生の走り幅跳びの記録測定は以下のように実施し、データを収集した。

①記録測定の日時

・2016年（平成28年）10月

②記録測定の対象校

・川崎市立K小学校（5年生2クラス、男子36名、女子26名）、

各クラスとも合計5時間の授業を実施した。

主な授業内容は、以下に示す通りである。

- 1) 走り幅跳びにつながる音楽を使っでの準備運動
- 2) 立ち幅跳びの記録を基にした各人の走り幅跳びでの目標記録の提示
- 3) リズミカルな助走の指導

- ・ 5歩助走、7歩助走、9歩助走、など
- 4) スムーズな踏み切り方の指導
- 5) 安定した両足での着地の指導
- 6) 走り幅跳びの記録測定

Ⅲ. 結果及び考察

1. 走り幅跳びの男女世界記録への到達率 (%) について

表1は、走り幅跳びの男女世界記録を示すとともに、日本記録、高校記録、中学校記録、小学校交流大会記録、今回のK小学校での測定結果、および先行研究の測定結果を示しながら、世界記録への到達率 (%) をまとめたものである。

表1からは、以下のことが指摘できる。

- ①本研究K小学校5年生の授業後の測定結果からは、世界記録への到達率は男子で30%程度、

女子では30%半ばであり、女子の方がやや高い到達率を示した。

- ②先行研究の測定結果（陳らによる）²⁾からは、小学校6年生では30%後半から40%程度の到達率が示されており、この測定結果からも女子の方がやや高い到達率である。
- ③小学生交流大会レベルでは、世界記録の60%半ばから後半の到達率が示されており、小学校での授業実践とは大きな開きがある。
- ④日本記録は世界記録の約90%、高校記録は約80%半ばから後半、中学記録は約80%前半の到達率である。

2. 他の陸上競技種目における世界記録と小学生の記録との比較

- ①走り高跳び

表2は、走り高跳びの男女世界記録と走り高跳

表1 走り幅跳び世界記録と各記録の到達率 (%)

| | | 男 子 | | 女 子 | |
|-------------------------|-------|------------|-----------------------|------------|-----------------------|
| 世界記録 | | 8 m 9 5 cm | | 7 m 5 2 cm | |
| 日本記録 | | 8 m 2 5 cm | 到達率 (%) 9 2. 2 (%) | 6 m 8 6 cm | 到達率 (%) 9 1. 2 (%) |
| 高校記録 | | 7 m 9 6 cm | 8 8. 9 | 6 m 4 4 cm | 8 5. 6 |
| 中学校記録 | | 7 m 4 0 cm | 8 2. 7 | 6 m 2 0 cm | 8 2. 4 |
| 小学生 交流大会 | 大会記録 | 5 m 7 4 cm | 6 4. 1 | 5 m 1 5 cm | 6 8. 5 |
| | 2016年 | 5 m 1 7 cm | 5 7. 8 | 4 m 8 3 cm | 6 4. 2 |
| K小学校 5年生 (2016年) | 授業前 | 2 m 7 0 cm | 3 0. 2 | 2 m 4 3 cm | 3 2. 3 |
| | 授業後 | 2 m 7 6 cm | 3 0. 8 | 2 m 6 3 cm | 3 5. 0 |
| 陳のデータ 5年生 (2012年) | 授業前 | 2 m 9 9 cm | 3 3. 4 | 2 m 7 1 cm | 3 6. 0 |
| | 授業後 | 3 m 1 5 cm | 3 5. 2 | 2 m 8 5 cm | 3 7. 9 |
| 陳のデータ 6年生 (2012年) | 授業前 | 2 m 9 9 cm | 3 3. 4 | 2 m 7 2 cm | 3 6. 2 |
| | 授業後 | 3 m 3 1 cm | 3 7. 0 | 3 m 0 1 cm | 4 0. 0 |

び授業の先行研究（藤田らによる）³⁾からの記録を比較して到達率で示したものである。

表2からは、以下のことが指摘できる。

- 1) 小学校での授業実践からの走り高跳びの記録は、5年生で約40%前後、6年生では男子は約40%、女子では50%に近い到達率である。小学校の授業実践からは、走り高跳びの方が走り幅跳びよりも世界記録への到達率が高くなっている。また、走り幅跳びと同じく、小学校の授業では女子の到達率が男子に比べてやや高い。
- 2) 日本記録も、男女とも世界記録の90%半ば

の到達率であり、走り幅跳びに比べて到達率がやや高い。

②50m走

表3は、50m走の世界記録（室内）と日本記録（室内）および小学校5年生の50m走タイム（文部科学省）⁴⁾を示し、世界記録への到達率（%）を比較したものである。

表3からは、以下のことが指摘できる。

- 1) 50m走における小学校5年生の世界記録への到達率は、約60%であり、やや女子の方が到達率が高い。
- 2) 日本記録の到達率は90%の半ばであり、男

表2 走り高跳び世界記録と到達率（%）

| | 男 子 | | 女 子 | |
|--------|------------|---------------------|------------|---------------------|
| 世界記録 | 2 m 4 5 cm | | 2 m 0 9 cm | |
| 日本記録 | 2 m 3 3 cm | 到達率 (%) 95.1 (%) | 1 m 9 6 cm | 到達率 (%) 93.8 (%) |
| 小学校5年生 | 9 2 cm | 3 7. 5 | 9 2 cm | 4 4. 0 |
| 小学校6年生 | 1 m | 4 0. 8 | 1 m 2 cm | 4 8. 8 |

表3 50m走世界記録（室内）と到達率（%）

| | 男 子 | | 女 子 | |
|--------|----------|---------------------|----------|---------------------|
| 世界記録 | 5. 5 6 秒 | | 5. 9 6 秒 | |
| 日本記録 | 5. 7 5 秒 | 到達率 (%) 96.7 (%) | 6. 4 7 秒 | 到達率 (%) 92.1 (%) |
| 小学校5年生 | 9. 3 7 秒 | 5 9. 3 | 9. 6 2 秒 | 6 2. 0 |

子の方がやや到達率が高い。

IV. ま と め

本研究の結果は以下のようにまとめることができる。

- ①小学生の体育授業での走り幅跳びを世界記録と比較すると5年生では、30%の半ば、6年生では30%の後半から約40%であり、女子の到達率がやや高い。
- ②同じ跳躍種目である走り幅跳びと走り高跳びを比較すると、走り高跳びの方が世界記録への到達率がやや高い。
- ③走種目(50m走)は、跳躍種目(走り幅跳び、走り高跳び)に比べて、世界記録への到達率が高い。

以上の結果から、「オリ・パラ教育」を志向した陸上運動の授業づくりに向けて、以下のことを提示することができる。

- ①小学校での陸上運動の授業づくりでは、「走ること」や「跳ぶこと」の世界記録を具体的・視覚的に提供することで、小学生とは大きく離れた世界のトップ選手のすばらしさを実体験でき、「オリ・パラ教育」への興味・関心の高まりに結びつけることが可能である。
- ②「オリ・パラ教育」を志向した授業として、世界記録・世界のトップ選手への挑戦をテーマにした授業づくりも可能であるが、世界記録への到達率などを考慮した目標記録の設定が求められる。

例えば、今回の授業で取り上げた「走り幅跳び」では、小学校終了段階では「世界記録の40%に

挑戦」が到達可能な目標記録になってくる。

- ③世界記録の他にも、日本記録や高校・中学記録、また身近な小学生記録等も活用することで、小学校での走り幅跳び授業での目標記録の多様な設定ができる。授業での目標記録の設定では、小学生一人一人が到達可能な記録の設定をすることが重要である。「頑張れば到達できる記録への挑戦」が、授業への意欲に繋がるからである。

例えば、小学校での短距離走の授業では、「ウサイン・ボルト選手の100m世界記録9秒58」で、小学生がどのくらいの距離を走ることができるかをテーマにした取り組みも見られている。

したがって、小学校での走り幅跳び授業においても、例えば、世界記録に何回の跳躍で到達できるか、あるいは世界記録への到達率を目安とした授業づくりなどが検討できる。

今後は、このような授業を具体的に実践して、その成果と課題を把握することが課題である。

参考文献

- 1) 主な文献
 - ・日本陸上競技連盟ホームページ
 - ・月刊陸上競技、他
- 2) 陳洋明、池田延行他、小学校高学年の走り幅跳び授業における指導内容の検討ーリズムアップ助走に着目した教材を通してー、スポーツ教育学研究61号、2012年
- 3) 藤田育郎、池田延行他、走り高跳び(はさみ跳び)の目標記録への到達率からみた教材内容構成の検討：観察的評価基準の作成と小学校高学年を対象とした縦断的实践、体育学研究55号、2010年
- 4) 文部科学省、平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書